

## 基礎分野

授業科目(必須)	論理学	担当講師	
対象学年、開講時期	1年次 前期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	『看護教育の発想』(看護の科学社)宇佐美 寛・米田和美		
<p>ねらい</p> <p>さまざまな価値観に基づいた自己の考えを筋道たてて、わかるように伝えられる能力、つまり主張の根拠を示して表現できるようになる。</p> <p>科目目標</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 正しい思考の形式と法則を理解する。</li><li>2. 論理的思考、文章表現の方法を理解する。</li><li>3. 批判的嗜好をする能力を養う。</li></ol> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 「文の七原則」</li><li>2 5W1H</li><li>3 文章の読み方</li><li>4 意見文の書き方</li><li>5 「AはBである。」文の構造</li><li>6 一文一義</li></ol> <p>方法 講義、演習</p> <p>上記の授業内容の1～6を具体的な資料文で意見文を書き検討する。</p>			
<p>参考文献</p> <p>資料:論理的思考(「看護教育」研究会)</p>			
<p>評価方法</p> <p>・毎回の課題による評価</p>			
<p>その他</p> <p>この講義は、グループ討議を主とした授業です。様々な価値観に基づいた自己の考えを筋道立てて、わかるように相手に伝えられる能力、つまり主張の根拠を示して表現できるようになって欲しいと願ってます。</p> <p>* 各自、A4・400字詰原稿用紙(縦書き)を準備すること。</p>			

授業科目(必須)	情報科学	担当講師	
対象学年、開講時期	1年次前期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	系統看護学講座 別巻 看護情報学 (医学書院)		
<p>ねらい          情報化社会において、情報の持つ意味を考え、医療や看護と情報の関わりを知る。また、コンピュータに関する知識を深め、情報の処理、判断に役立てることができる。さらに日常の看護の学習や実践に役立てることができる。</p> <p>科目目標          1. 情報科学の基礎的知識を修得し、看護との関連性を理解する。          2. 情報処理の基本的方法を習得する。</p> <p>授業内容          1. 情報とは            1) 情報とは            2) 情報技術とコンピュータ            3) 情報倫理          2. 情報化社会            1) 情報化社会とは            2) IT(ICT)          3. 保健医療と情報            1) 医療情報の種類            2) 医療情報システム          4. 看護における情報            1) 看護におけるデータ・情報・知識            2) 看護実践における情報          5. 情報の処理の基礎的知識がわかる            1) パソコンの基本操作            2) 文書の作成(Word)            3) 表計算ソフトの演習(Excel)            4) プレゼンテーションの演習(PowerPoint)            5) 情報検索の演習</p> <p>方法   講義、パソコンを用いた演習</p>			
<p>参考文献          必要時紹介</p>			
<p>評価方法          ・筆記試験、実技試験</p>			
<p>その他          この授業では、「情報とは」「看護における情報とは」について学び、情報処理の方法の基礎的知識を身につけ、学習や看護実践で活用できることを願っています。</p>			

授業科目(必須)	生活科学	担当教員	
対象学年、開講時期	1学年 前期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	食:公衆栄養学(同文書院)、衣・住;なし		
<p>ねらい</p> <p>看護者の役割は、健康上に問題をもつ人に対して、快適な療養生活がおくれるように身の周りを整えることにある。人間が生活をするに当って基本的な要素である“食べること”“住むこと”“着ること”の行為は、共通性がありながら非常に個別性の強い行為である。生活環境を含めた衣・食・住のあり方を学び、日常生活援助の基礎にする。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとっての衣・食・住生活の意義を理解する。</li> <li>2. 看護における日常生活援助の基礎となる、人間にとっての衣・食・住のあり方について理解する。</li> </ol> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとっての衣生活 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 被服の役割</li> <li>2) 繊維・織物の種類と特徴、用途</li> <li>3) 被服の汚れと洗濯方法</li> <li>4) 高齢者・障害者の衣服の条件と工夫</li> </ol> </li> <li>2. 人間にとっての食生活 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢社会における栄養管理の意義と必要性</li> <li>2) 栄養・健康増進対策と諸問題</li> <li>3) 食生活評価</li> <li>4) 健康栄養教育の理論と方法</li> </ol> </li> <li>3. 人間にとっての住生活 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 住宅の基本的知識</li> <li>2) 住環境の改善の基本的考え方と方法</li> <li>3) 住環境改善のプロセス</li> </ol> </li> </ol> <p>方法</p> <p>講義、演習(住:バリアフリーの図面作成 衣:しみ抜き、足型取り 食:食育指導など)</p>			
<p>評価</p> <p>筆記試験</p>			
<p>その他</p> <p>この講義は、基礎看護学・方法論における基礎知識になります。日常生活援助技術の根拠として活用します。</p>			

授業科目(必須)	看護物理学	担当講師	
対象学年、開講時期	1年次、前期	単位数(時間)	1単位(15時間)
教科書等	看護学生のための物理学(医学書院)		
<p>ねらい</p> <p>看護学は人間を対象とする学問であるため、医学、化学、物理学、心理学、哲学等と深い関係があり、非常に学際的である。特に、日常行われている看護のほとんどが物理学と密接に結びついている。本講義では、看護学の中にある物理学的事項への関心を深め、看護技術の原理・原則を理解し、技術の改善・応用までも可能にする基礎力を養うことを目的とする。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 位置や速度、力、時間、エネルギーなどの基本概念を理解する。</li> <li>2. 力学法則、エネルギーと運動量の保存側などを理解する。</li> <li>3. 看護に必要な力学(力の合成、分解、モーメント、摩擦力、重心)について理解する。</li> <li>4. 看護に必要な圧力について理解する。</li> </ol> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護と力学 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)力の合成と分解</li> <li>(2)力のモーメント</li> <li>(3)作用反作用の法則</li> <li>(4)摩擦力</li> <li>(5)重心と安定性</li> <li>(6)ボディメカニクス</li> </ul> </li> <li>2. 看護と圧力 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)気圧と圧力の大きさ</li> <li>(2)ベルヌーイの定理</li> <li>(3)圧注入と点滴注入</li> <li>(4)吸引とドレナージ</li> <li>(5)血液循環と血圧</li> </ul> </li> </ol> <p>方法 講義</p>			
<p>評価</p> <p>筆記試験</p>			
<p>その他</p> <p>看護学の中にある物理学的事項への関心を深め、看護学と物理学の密接に関係していることを理解する。また、看護実践にあたり安全で効果的に行うために根拠となる知識を習得する科目である。</p>			

授業科目(必須)	臨床英語	担当教員	
対象学年、開講時期	2年次前期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	園城寺康子 ジョン・スケルトン著 Everyday English for Nursing on DVD 成美堂		
ねらい	英文献を読むこと、看護用語等の専門用語について基本を学び、英語で書かれている情報を理解し、要約能力を育成する。		
目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護に関する文献の通読や医学用語を理解する。</li> <li>2. 患者と英語でコミュニケーションをとる方法を理解する。</li> <li>3. 看護英語に対する関心を高める。</li> </ol>		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学用語</li> <li>2. 看護に関する英語文献の読解</li> <li>3. 臨床場面における英会話</li> </ol>		
方法	講義、VTR視聴		
評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>①小テスト 授業開始最初の10分は、全回で学んだ単語テストを行う。</li> <li>②最終テスト</li> </ol>		
その他			

授業科目(必須)	心理学	担当講師	
対象学年、開講時期	1年次、前期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	新・心理学の基礎を学ぶ(中里至正、松井洋、中村真編著)八千代出版		
<p>ねらい</p> <p>看護の場において重要である人間理解を図るために、こころの科学である心理学の立場から知識を習得する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学の基礎的な考え方を理解する。</li> <li>2. 人間理解のために必要な人に特有な行動特性を理解する。</li> <li>3. 社会的な関係によって生じる特有な人の行動傾向を理解する。</li> </ol> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学の歴史</li> <li>2. 知覚心理学</li> <li>3. 欲求と行動</li> <li>4. 適応機制(防衛機制)</li> <li>5. 発達と行動</li> <li>6. パーソナリティの形成、パーソナリティの理論</li> <li>7. 学習のしくみ(行動形成)</li> <li>8. 社会心理学(対人認知、対人魅力、自己と社会的行動)</li> </ol> <p>方法</p> <p>講義 課題</p>			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>			
<p>その他</p>			

授業科目(必須)	教育学	担当教員	
対象学年、開講時期	2年次、後期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等			
<p>ねらい</p> <p>教育の本質と人間形成における教育の重要性を学び、看護における教育活動に応用できるようになる。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育とは何かを基盤として、看護職者としての教育的視点を養う。</li> <li>2. 教育方法・評価と学習意欲について理解する。</li> <li>3. 現代社会における諸問題と教育について考える。</li> </ol> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育学とは</li> <li>2. 看護と教育</li> <li>3. 教育の方法</li> <li>4. 学習意欲</li> <li>5. 教育評価と性格</li> <li>6. 現代社会の諸問題 <ul style="list-style-type: none"> <li>ひきこもりと不登校</li> <li>児童虐待</li> </ul> </li> </ol> <p>方法</p> <p>講義 グループワーク演習</p>			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>			
<p>その他</p> <p>教育に関する幅広い時事問題を多く取り入れた授業です。現代を生きる看護者として必要な教育問題に関する知識と問題解決力が身につくことを指導のねらいとしています。意欲的な参加を望みます。</p>			

授業科目(必須)	家族社会学	担当講師	
対象学年、開講時期	1年次、後期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等			
<p>ねらい</p> <p>基礎集団とされる家族に焦点を当て、社会の構造と機能を学び、「機能としての家族」「感情家族としての家族」という視点から家族と個人の関係、社会と人間との関わりを理解する。 さらに家族成員の疾病や高齢、あるいは障害等、家族機能や家族関係に大きな影響を与える問題をとりあげ、家族ソーシャルワークの可能性を検討する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会学の基本概念を理解する。</li> <li>2. 家族とは、家族機能の役割・変遷について理解する。</li> <li>3. 家族ソーシャルワークの基本概念を理解する。</li> </ol> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会学の視点と考え方</li> <li>2. 家族政策の変遷と家族意識(家族の歴史的理解:ムラ・イエ・拡大家族・性別分業型核家族)</li> <li>3. 機能集団としての家族・感情関係としての家族</li> <li>4. 家族ソーシャルワークの視点と方法</li> <li>5. 家族ソーシャルワークの実際</li> <li>6. 個人と家族(私のなかの家族、家族のなかの私)</li> </ol> <p>方法</p> <p>講義 グループワーク 課題</p>			
<p>評価</p> <p>レポート課題 授業参加度 (評価基準は授業で説明する)</p>			
<p>その他</p> <p>人間は社会的存在として集団生活の中で生活しています。特に、だれしも家族とは無縁ではありません。ひとり一人の人間がその人らしく生活すること、家族のメンバーであることとはどのような関わりがあるのでしょうか。直接の対象としての患者だけでなく、家族のメンバーとしての患者を考え、家族のメンバーとしての私を考えることで、看護者としての自分自身を考える基礎になることを願っています。</p>			



授業科目(必須)	人間関係論	担当講師	
対象学年、開講時期	1年次 後期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等			
<p>ねらい</p> <p>この講義では人間関係の基礎といえるコミュニケーションについて考える。行動療法、人間性心理学、論理療法といった心理臨床的学問を背景としたアサーション&lt;自己表現&gt;トレーニングをベースとして「自他尊重」のコミュニケーションのあり方について深めることを目的とする。ゼミナールでは、理論的理解を体験的理解へ深めるためにグループワークを中心に自己理解、他者理解、相互作用の理解について考えていきたい。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活において自己対他者、援助者対被援助者、個人対集団などの人間関係のあり方について理解する。</li> <li>2. コミュニケーションが人間生活においてはたす役割、機能、相互作用などについて理解する。</li> </ol> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 『自己表現』とは</li> <li>2. 自己信頼と基本的人権</li> <li>3. 認知と感情</li> <li>4. 言語上の自己表現1 日常場面を中心として</li> <li>5. 言語上の自己表現2 問題解決場面を中心として</li> </ol> <p>ゼミナール</p> <p>自己理解、コミュニケーション、リーダーシップ、価値観など人間関係を構成する諸要素をテーマとした体験学習を予定</p> <p>方法</p> <p>講義、グループワーク演習、ゼミナール</p>			
<p>評価方法</p> <p>レポート課題 演習課題(評価基準は授業で説明する)</p>			
<p>その他</p> <p>グループワーク等演習を多く取り入れた授業です。</p> <p>この講義で学習した対人行動スキルを実際に臨床の場で積極的に使い、人間理解が深められることを願っています。</p>			

授業科目(必須)	カウンセリングの基礎	担当講師	
対象学年、開講時期	2年次、後期	単位数(時間)	1単位(15時間)
教科書等			
<p>ねらい</p> <p>看護の基本となる人間関係を発展させるためのカウンセリング技法とその基礎理論および背景を学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. カウンセリングの基礎知識を理解する。</li> <li>2. 「傾聴・受容・共感」の意味を理解し、看護者としての基本的態度を養う。</li> <li>3. 基本的なカウンセリング技法がわかる。</li> </ol> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. カウンセリングの概念 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) カウンセリングとは</li> <li>2) カウンセリングの人間観</li> <li>3) カウンセリングの歴史と諸理論</li> <li>4) さまざまな専門領域におけるカウンセリング</li> </ol> </li> <li>2. カウンセリングの基本的態度 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 傾聴</li> <li>2) 受容</li> <li>3) 共感</li> </ol> </li> <li>3. カウンセリングの実践 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 看護職のためのカウンセリング技法</li> <li>2) 事例検討</li> <li>3) ロールプレイ</li> </ol> </li> </ol> <p>方法</p> <p>講義 ロールプレイ 事例検討</p>			
<p>評価</p> <p>筆記試験</p>			
<p>その他</p> <p>カウンセリングや心理的援助を行うとはどういうことなのでしょう。この講義を通じて、皆さんが自分なりの考えや手応えを見つけられればと願っています。</p>			

授業科目(必須)	生命倫理	担当講師	
対象学年、開講時期	2年次、後期	単位数(時間)	1単位(15時間)
教科書等	基礎から学ぶ生命倫理 (村上喜良) 勁草書房		
<p>ねらい</p> <p>延命措置の中止、治療の優先順位、脳死臓器移植など、医療の現場における倫理的問題を考える。 倫理的問題について討議しながら、自己の考えを明らかにできる。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理的問題とはどのようなことであるかを考えられる。</li> <li>2. 倫理的問題について、他者と意見交換ができる。</li> <li>3. 倫理的問題について自分自身の考えを明らかにすることができる。</li> </ol> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命倫理とは何か</li> <li>2. 生命倫理学の基本知識</li> <li>3. 人工妊娠中絶</li> <li>4. 生殖補助技術</li> <li>5. 遺伝子操作</li> <li>6. 脳死と臓器移植</li> <li>7. 安楽死・尊厳死</li> <li>8. ケアという視点</li> <li>9. まとめ</li> </ol>			
<p>評価方法</p> <p>討論への取り組む姿勢(評価基準は授業で説明する) 小テスト(2～3回に1度実施)</p>			
<p>その他</p> <p>《学生への要望》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回テキストを読んでくること</li> <li>2. ノートをしっかりとって、復習すること</li> <li>3. 自分の意見を持つこと</li> <li>4. 討論に積極的に参加すること</li> </ol>			

授業科目(必須)	異文化理解	担当教員	
対象学年、開講時期	1年次前期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等	Forrest Gump (ELTBooks)		
<p>ねらい</p> <p>異なる文化を持つ外国人との交流を通して、互いの違いを認め合う心を養う。さらに、看護における国際的視野を持つ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国語の文章を理解する。</li> <li>2. 異文化に触れ、国際感覚を身につける。</li> </ol> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 外国語の日常会話(英会話)</li> <li>2. 在留外国人、諸外国の書物、音楽、映画、食などに触れ、異文化を理解する。</li> </ol> <p>方法</p> <p>講義、 外国人との交流会等</p>			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験、レポート(評価基準は授業で説明する)</p>			
<p>その他</p> <p>英語辞書を毎授業持参すること</p>			

授業科目(必須)	保健体育	担当教員	
対象学年、開講時期	1年次 後期	単位数(時間)	1単位(30時間)
教科書等			
<p>ねらい</p> <p>健康生活を支える運動について理解し自己の体力の維持・増進を図る。個人及び、集団の健康教育に活用できる基礎的な知識を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動が身体各部へ及ぼす影響を理解する。</li> <li>2. 自己の体力の維持・増進を図ることができる。</li> <li>3. スポーツの基礎を学び対象にあわせた運動に活かすことができる。</li> </ol> <p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 体力とトレーニング <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 体力とは</li> <li>2) 体力づくりとその効果</li> <li>3) 健康維持、体力向上のための運動方法</li> </ol> </li> <li>2 体育実技 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ストレッチ</li> <li>2) 体操</li> <li>3) 球技</li> <li>4) ニュースポーツ</li> </ol> </li> </ol> <p>方法</p> <p>講義 実技</p>			
<p>評価</p> <p>実技参加態度(評価基準は授業で説明する)</p>			
<p>その他</p>			